

【追悼文】

大岩弘典先生を悼む

東京慈恵会医科大学環境保健医学講座 池田 知純



大岩弘典先生は平成28年6月24日、第13回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会学術集會に参加するために都内のホテルに滞在中、急逝されました。満82才でした。

大岩先生は、昭和9年4月30日、中部電力社長大岩復一郎氏の三男として長野市に生を享け、長野高校を経て昭和34年日本大学医学部をご卒業され、都立広尾病院に勤務の後、東京医科歯科大学衛生学教室に籍をおかれしました。同門に、梨本一郎先生、眞野喜洋先生がおられます。昭和44年海上自衛官に任官、潜水医学実験隊実験3部長、江田島地区病院長、潜水医学実験隊司令等を歴任され、海幕首席衛生官を最後に平成6年海将補で退官されました。その間、平成5年には本学会総会長を務められました。退官後は平成16年まで鎌倉女子大学教授に就かれ、その後さらに、南あたま第一病院でダイバーズクリニックを立ち上げられるとともに、ダイビング雑誌に潜水医学の連載コラムを執筆され、潜水医学の著書を上梓されるなど、スポーツダイバーの健康管理にご尽力なされました。また、Undersea & Hyperbaric Medical Societyからも特別表彰され、まことに潜水医学にエネルギーを傾注された生涯だったというほかありません。平成17年には瑞宝小綬章を受章され、歿後従四位の位階を授かっておられます。先生には靖子夫人と二人のご子息が遺されています。

大岩先生に初めてお目にかかったのは、昭和53年のことです。私が海上自衛隊横須賀地区病院に勤務中、恰幅のいい背の高い紳士が突然現れて、潜水医学の夢を語られたのです。潜水に縁のなかった私にはおっしゃられる意味がよくわかりませんでした。海上自衛隊で初めて夢を語る医官に出会い、いつの間にか潜水医学の世界に足を踏み入れることになってしまいました。私は潜水医学の世界でおそらく先生の最初の弟子になろうかと思いますが、生意気で反抗ばかりしていて決して従順な弟子ではありませんでした。しかし、先生は常に温かく見守って下さり、米海軍潜水医官課程や英海軍飽和潜水課程を履修できたのも全て先生が敷かれたレールを辿っていたに過ぎないことに後で思い至りました。感謝の言葉もありません。

そのような私から見て、まことに僭越ですが、先生の人となりをあらわす言葉を二つ挙げさせていただきたいと思います。それは、類い稀な実行力と情の深さです。通例にこだわることなく労を厭わず関係の部署に足を運ぶ姿を何度も目の当たりにしました。先生の情熱と実行力がなければ、海上自衛隊に飽和潜水能力が備わることは決してなかったと断言できます。情の深さは、上首尾に行った場合は我がことのように喜び、困難に直面したときは心から心配して手を差し伸べられる姿に現れています。このようなお姿に接したのは決して私だけではないと思います。

また、先生のご活躍は自衛隊ばかりにとどまりません。つい最近、都立荏原病院に第2種高気圧酸素治療装置が導入されたのは大岩先生の人脈があつたことだと、そこの治療責任者から教えられ、先生には私どもの思い至らない広い世界がおありの事をあらためて思い知らされました。

このように潜水医学の世界で八面六臂の活躍をされた先生も、お年を召され背の高さも少しばかり低くなっておられました。このところ、潜水関係の会合で続けて何度かお目にかかる機会があり、二人で並んで椅子に腰をかけ、来し方行く末をゆっくりと語る贅沢なひとときを過ごさせていただきました。年を取られても、少年のようなまなざしを留めておられたお姿を忘れることができません。先生のご冥福をこころからお祈り申し上げます。